慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	遊戯の説
Sub Title	
Author	澤木, 四方吉
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.3, No.4 (1910. 4) ,p.480(114)- 490(124)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100415-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

及ぼすことなかる可く、又假令ひ斯る法律を制定するも銀行をして將來多額の外國手形其他の資産を所有せしむることを妨ぐる能はざる可く、銀行は依然庫中に準備金を貯藏するよりも有利なる方法に之を利用することを止めざる可し。

然れども金貨拂の規定を設けんか、同國は間接に利益する所ある可し。何となれば斯くする時は外國人をして墺匈國の貨幣制度は完全に樹立せられたるものなることを信ぜしめ、同國に對する國際信用の增加を促し、多額の負債を有する同國に於て此信用を利用せんか好結果を齎すこと少なからざる可ければなり。

中央銀行の金爲換政策は近時の銀行論に於て最も興味ある問題なり。本論文中獨逸帝國銀行が割引政策のみに依賴するが如く論じたるは事實に當らず。帝國銀行は近年殊に千九百六年來金爲替政策を行ひ、現に過般銀行條例改正委員會の一問題に上れり。Bankenquete 1908. を參照せんか。獨墺兩國中央銀行の金爲換政策の一斑を知るを得べし。(堀江歸一附記)

遊戯の說

澤木四方吉

一、生理的說明

人間の活動、動作は之を大別して仕事(ワーク)と遊戯(プレー)との二つと見ることが出來る。此二つは相對立する活動である。人間が其個性を沒却して偏に四圍の事狀、卽ち實境の要求に從て働く活動を仕事といひ、之に反して個性が自發的に外部に發現したるものを遊戯と名づくるのである。去れば仕事とは活動それ自身以外の他の目的に到達せんとし又は之を成就せんが爲の活動である。換言すれば實際的、功利的目的を有する手段的の動作卽ち仕事である。之に反して遊戯とは活動それ自身を目的とする活動、卽ち何等實際的目的に拘束されぬ自由な勝手氣儘な活動である。此故に仕事は眞面目である。嚴肅である。遊戯は快活でさる。愉快である、隨て仕事は常に樂しく愉快なものとは云へぬ、屢々苦痛と不快とを伴ふものである。然るに遊戯は常に愉快で且つ樂しい。こは說明する迄もなく人々の經驗に照らして明かなる事實である。

以上は仕事と遊戯との區別に就いての簡單なる常識的說明なるが、此遊戯といふ現象は如何にして人類否汎く動物に生起したか、そは如何なる職能を有し、且つ如何なる効果を齎らすものであるかといふ說明を試みんとした學說が種々ある。其見解の相異する點より之を大體三つに分けることが出來る。

(一)餘剩精力說(Theory of surplus energy)
(二)休息說(Theory of Recreation)
(三)豫備說又は練習說(Theory of Preparation or Practice)

以上の三說の主張を簡單に說明すると、第一說は動物や人間の精力が生を支へてゆく必要以上に有り餘る時は、其餘力が目的なき動作卽ち遊戯となりて現はれることを云ふのである。元氣旺盛、活力盈溢して然も之を用ふべき途を知らぬ時は唯だ理由もなく歌たり、吐鳴たり跳ねたり、戯れたり、取組んで角力つたりするものである。活氣充滿せる年少者の場合に於てそれは特に著しい。若い者には時に騒がしく遊ばしめないと必らず善い事をしないものである。抑壓されたる力は必ず何處にか出路を求めて破裂しなければやまぬ。Jugend muss austoben, der Hafter sticht ihn. とか "Youth must sow his wild oats" などいふ言は如斯き餘剩精力の解發又は發散の必要なことをいふたのである。遊戯は卽ち此餘剩精力の解發されて現はれたのであるといふのである。第二說は之と全然反對で遊戯は疲勞を休むる者卽ち消耗されたる力を緩めて元氣を恢復せしむる爲めに生じたりと說く。彼の琴の弦や弓の弦は常時之を張り詰めて置くならば其力を弱むること早く到底永き使用に堪へないであらう。其れと同樣に人間も劇しき生存競爭場裡に立ちて實務を續けんとするには時々其力の絃を緩めねばならぬ。息を入れねばならぬ。遊戯

は疲勞を休養し消耗喪失されたる力を遲らす清涼劑なりと主張する。第三說は此の兩說よりも根本的に生物學上より遊戯を說かんとしたものである一言で言へば遊戯は生の保存の上に大切な本能の練習的反覆であるといふ。換言すれば實生活の仕事の豫備的動作なりと說く。小猫の轉囘する球に戯れるのや、人間の場合にありては女兒の飯事、男兒の戰事の如きは其好適例であるが其他奈何なる遊戯も人間動物の精神的並に肉體的發達にとりて重要な役目を有して居ることを力說せんとするものなるが此は後に詳しく說明する。

吾人が今第一に試んとする遊戯の生理學的說明といふのは以上の三說中の第一說卽ち餘剩精力說が最初に採つた所である。此れは遊戯說の始祖たる獨逸のシラー氏に其源を置くもので、氏は動物が精力旺盛にして生活力が有り餘る時には其餘勢逝りて何等の目的もない、活動其れ自身の爲にする活動となりて現はれると說いた。英のスペンサーは此說に科學的基礎を與へんとして生理的說明を試みた。以爲く神經節細胞が完全にして餘力ある時は神經發解を甚だ容易にし且つ快からしむるものなりとなし、更に人間及高等動物にありては著しく發達進化したる結果第一に生存競爭上必要缺くべからざる力より、より以上の餘力を有し、第二には或一方の力が働かされてゐる間に或他の力は其活動を休められ、隨て其が蓄積せらるゝ所から、目的のない活動が生じて來る。而して此活動は之をなす當人にとりては快適の感を起す所の遊戯に外ならぬと說くのである。

然し此スペンサーの生理說には先づ第一に被るべき難點である。卽ち餘剩精力といふ事のみでは遊戯の種々の相異れる形式を說明することが出來ぬ。同じく餘剩の精力でありながら何故に各高等動物には各々其れ自身に特有及遊戯として現はれるか。詳しくいへばひとしく餘剩精力の緊張を弛緩せしめ發散せしむる役目を有する活動の表現形式が人間には人間特有の遊戯として鳥には鳥の遊戯として相異りて現はれるか。其變化の理由を說かなければならぬ、スペンサー氏は模倣の原理を以て之に對へんとしたが精密に檢らべてみると模倣では說明のつかぬ點がある。氏は動物が年長者又は其種族の行爲を模倣する事が此餘剩精力の出口卽ち表現の形を決定するといふが、斯く論ずれば幼兒が未だ餘剩の精力のない場合の最初の模倣的の動作は遊戯的とは呼ばれ得ずして偏に他の動作に倣はんとする目的ある反覆的動作であるといはねばならぬ。然るに普通には模倣といふことはもつと衝動的に解されて居る。最もスペンサー氏は小兒の間に多く行はるゝ遊戯は飯事、戰事の樣に成人の行爲の演劇化であるといふ所から見ると小兒には普通的一般的なる模型的模倣があると認めた樣であるが、それのみにては遊戯の一部面を說くには足るかも知れぬが他の特種なる遊戯を說明するには足らぬ所がある。兎に角模倣といふ事を通常の意味に解するならば之を以て有ゆる遊戯を說明する普遍的標準とすることは六つかしい。

以上の說明では各動物特有の遊戯の生起したる理由を明にするに足らぬとすれば他の何等かの說明に俟たねばならぬが、スペンサー氏は自身は左程重要となしないであらうが、氏は或個所に於て氏の提供した模倣といふ標準よりも包括的な標準を暗示して居る。卽ち遊戯は重大なる本能に根蔕を置くといふことである。氏は遊戯に於て模倣せらるゝ動作は明に其動物が辿り來れる經歷中にありて最も大事な行動であると說き、掠奪的本能及破壞的本能が遊戯で以て觀念的に卽ち思想上で其本能を滿足せしむるといふ例を擧げて居る。此本能の滿足といふ思想は遊戯の諸形式を包括的に說明するに最も重要な思想で、スペンサー氏自からが採つた模倣の原理よりも此衝動的本能的生活によりて說かねばならぬ。遊戯の形式を說くに此本能又は衝動を借りるならば餘剩精力說は以前の瞬眸の誹を脫するとが出來よう。卽ち發達したる高等動物には生得の種々なる本能存在し、其本能が永い間其活動を發散解發するの機會を與へられない時には其結果として此餘力を使用するやうに內

部から壓迫せられ、斯くて其衝動の思想的或は觀念的の滿足卽ち遊戯が惹起せらるゝものなりと說明することが出來る。

如斯く說き去る時は此餘剩精力の生理說も甚だ包括的となる。特に精力活氣旺盛なる少年の活潑なる運動的遊戯は餘剩精力の熄み難き迸發であるから此說で遺憾なく說かれ得る。尙ほ籠の中の鳥や檻の中の動物の運動又は身體を勞役しない職業の人の運動的遊戯なども此說を確立する好例である然し經驗によりてみるに遊戯は餘剩精力のある時に計り現はれるものではないから此概念は遊戯を說明するには決して一般的普遍的の標準ではない樣である。寧ろ今述べた衝動と之を動かす所の刺戟とがあれば充分に說明される。卽ち腦の或一定の局所に於ける一定の反動(レアクション)に向ふ遺傳的衝動があれば充分である。餘剩精力を藉りる必要はない。小猫が囘轉する球に爪を研いで狙ふのも、大猫が鼠を見て飛びかゝるも其動かし來る衝動には二つない。小兒の模倣的本能や爭鬪的本能が如何なる原因によりて興奮されたにしても今の例と等しいことが言はれる。若し假りに動物の生得の衝動を働かしむる外的刺戟が絕對にない場合があるならば、蓄積された精力を永い間働かさない結果は自から遊戯に導くであらうが、實際に就いてみるに刺戟は數へ切れぬ程澤山働いて居るからシラーやスペンサーの所謂餘剩精力は遊戯の缺ぐべからざる且つ普遍的な條件とはならぬのである。勿論此餘剩精力といふ概念は遊戯の說明上便宜な好都合なものたることは否み得ないが、決して不可缺のものとは云へない。故に吾人は前に擧げた「生得の衝動」が完全な遊戯を立つる上に於て要石(キーストン)をなすべきであると認めざるを得ない。最も外的刺戟に興奮され局所には血液が集まつて來るから隨て其部分の活動を熾ならしむるは勿論であるが、之を以て餘剩精力の確實性を主張する盾とすることは出來ぬ。

如此、餘剩精力といふ條件は遊戯を說明する上に於て不可缺の條件ではない然し好都合な便宜な

條件なりとすれば之を生かす爲に何等か他の說を持來りて之を補ひ、以て完全なる系統を作ることは出來ぬか。吾人は遊戯の第二の說明として最初に揭げた休息說を少しく檢べて見よう。此說はラツアルス氏が主唱したもので其原理は極めて簡單である。卽ち身體や精神を働かした結果疲勞しながらも尙ほ未だ眠る事も憩ふも欲せぬ時には遊戯をなし之によりて齎らさるゝ積極的の休息を歡迎するものなりといふのである。打見たる所スペンサー氏の說とは全然反對の結論に導くやうに思はれる蓋し一は遊戯を精力の消費なりとなし、他の一は反對に精力を保存するものなりといふからである然し此反對衝突するが如く見ゆるのは單に外見丈けで內實はスペンサー氏の說の補助と見られる場合が多い。例へば學生が一日の課業を終へて庭球を遊ぶとしたならば之により疲勞し弱められた精神力を復活せしむると同時に、机に對つて居る間に蓄積された運動衝動を發散し沈靜せしむることが出來る。卽ち同一の動作が一方に於ては餘剩精力を處理し、他方に於ては喪失されたる力を復活せしむるのである。如斯き場合のみでは此理論はシラーやスペンサーの說の補助となり得るが、然し奈何なる遊戯も皆此のやうに都合よくはなつて居らぬから此二說を繫ぎ合はしても滿足な說明とは云へない。

上のやうな說明法も或場合に限りて應用されるのみで遊戯てふ現象を悉くは說き得ないが、此休息說は啻にスペンサー氏の說の補助たるに止まらず或場合に單に此理論のみで說明の出來る場合もある。例へば精力が喪失された場合には唯だ單に積極的に休息を覓むるものであるから運動解發を促がす所の餘剩精力は決してあり得ない、却て適度の精力を獲得して身心を平常(ノーマル)なる狀態に引き戻さんとするものである。卽ち此場合に於ける動作は虧けたるを盈さんとする行爲である。不思議なことには或仕事に勞れて休息をなす場合には特に其仕事を中止せずとも休息を得られる場合がある卽ち其仕事の對象を更新することや、努力の方向

を變へる事は勿論唯だ身心の態度を少しく變化せしむるのみにても充分疲勞の感を除くに足る場合が屢々ある。例へば或難解な科學書を讀んで倦んだ場合には之と同じ位難解な科學者書でも問題の異つた方面を論じたものに精神を向くる時は却て精神力の休養となり更に暫く時を措いて前の書に移るならば更に再び新興味を以て之に對することが出來る。同じ四肢を用ふる職業でも甲から乙に移る時は四肢を休息せしむるものなりとスタインタール氏はいうて居るが此れ亦同じ理に基く。登山者が汗になつて喘ぎ〳〵急坂を攀ぢてから平坦なる路に差かゝると啻に疲れを休むるのみか、時としては更に勢を增すことがあるは事實である。尙ほ水泳者が普通の態度で長い間泳ぎ續くる時に時々暫く仰向きなつて泳ぎ以て休息の手段となす如き亦此同じ理である。

吾人は尙ほスペンサー氏の說では說明し得ない遊戲の或ものは此休息說で說明することが出來る前に擧げた例のやうに學生が課業の樣に庭球野球其他の運動的遊戲をなす場合にありては餘剩精力說と休息說とは相互に補助して同一過程の積極及消極の兩面を說くことが出來るが、圍碁、將棋のやうな單に精神力のみを用ふる遊戲では筋肉の運動解發といふことが全然缺けて居るから餘剩精力說を藉りる必要は少しもない。卽ち前說は年少者に多く見る如き運動的遊戲を說くに便であるが成人の場合のやうな休息的な遊戲を說くには第二說による方が便利である。換言すれば餘剩精力說は休息の必要ない餘剩力の發現としての遊戲を說くが上に述ぶるが如く遊戲は倦怠したる場合卽ち精力缺乏して休息を欲する場合にも現はれるものであるから到底完全な說明とは云へぬ。

如斯く餘剩精力說は不都合であるが、然らばとて休息說を以て之に代らしむることは前に述べたやうに或制限を超えては出來ないのみならず遊戲には此等兩說の孰れを以てしても說き得ない性質がある。彼の勝負事のやうな遊戲になると一度之をやりかけると停止することを知らず精力の竭くるまでも行はうとする性質を有て居るものであるが之を餘剩精力說で說かうとすれば精力の竭くるまで續けんとする傾向と衝突することゝなるし休息說を以てしては失はれたる力が恢復されたらば遊戲はやむべきに却て再び之を失はうことを顧みない傾向のあることゝ矛盾することになる。卽ち遊戲は反覆性を有し同一動作を繰り返すもので此反覆は無制限に續けられて終には精力竭きて恍惚無我の失神的情態に沒入するものであるが此二性質を說くには上の如き兩說は最早や應用し得ないのである。吾人は少しく遊戲に於ける此兩性質に就いて述べてみよう。

遊戲の反覆性を說くに先ちて吾人は第一に有ゆる動物の生活に於て無意的の反覆運動は頗る重大なる意義ある事に留意せねばならぬ。卽ち下等なる單細胞動物は擴がつたり縮つたり常に一定の伸縮的運動をなし、高等動物にありても、呼吸、心臟の皷動は一定の波動的運動を繰り返すものであるが、如斯き無意的活動に限らず、有意的活動の範圍內に於ても之と酷似せる反覆活動をなさんとする熄み難き傾向がある。此反覆の傾向は同一刺戟を增進せしめんとする傾向であるからバルトウン氏は之を循環的反動(Circular reaction)と呼んで居る、有機體の或部分に刺戟が加へられて運動を起す時は、其運動の感覺的結果は更に此運動を繰り返さんとする努力を驅る刺戟となるのである。此反覆的傾向は小兒にはよく見られるが、成人の實際生活にありては生存競爭に追はれて居るから偏に實利的目的を成就せんことのみ希ひ此反覆の衝動を實行する隙がないが、若し一歩其繁劇なる業務の生活から離れる時には此衝動を實行するものである。精神病に罹つた者には特に著しく之をみることが出來る。卽ち同病患者は或歎聲、言語又は動作を絕えず反覆する特質がある。或精神病學の書には或婦人の患者が終日"Jesus. Jesus"と口誦み、或患者は空虛な皿の中に何か飲料でもあるかのやうにセッ〳〵と掬ひ飲む動作を繼け、尙ほ他の患者の如きは自分の身體の一部分を無暗に

引搔いて遂に非常に傷く迄に至つた例を擧げて居る。彼の催眠術に罹けられた者の不意的運動、動作も亦同じ類である。催眠狀態に在る者に腕を擴ぐることを命ずる時には、此運動を反覆せんとする傾向を示すのみならず、之と反對な命令を與へても少時は此動作を繼續するものである。平常な狀態に在る人でも暫時我を忘れる位な非常な悲しみや歡びに遭遇する時にも此と似たことが起る。卽ち機械的に單純な叫びを反覆したり、無意味な動作を繰り返すものである。或鳥類の交尾期に於ける狂醉的情態などは此現象の最もいゝ説明である。鈴鳥は耦を求むる啼聲を永い間烈しく反覆するが爲に終に疲勞し切つて斃れて地上に墜つるといふことである。

遊戯も亦吾人を日常の實生活から分離するものであるが、そは吾人は遊戯に於て反覆の衝動を自由に實行し、其極恍惚失神狀態に入るからである遊戯は耽け易く溺れ易いといふのは此傾向を示すものである。先づ第一に小兒の場合に就いてみれば最も解りよい。小兒は何か面白い事があれば直きにそれに耽けて無我夢中になるものである。小兒を取扱つたことのある人はよく知つて居る如く小兒は同じ物語を幾度聞いても決して飽かぬもので際限なくそれを語ることを强請むものである。遊び事も常に同じ事を繰り返すものである。運動競技や戰事をして疲勞しても息を吹き返すと直ぐに起き上つて又始める。バルトウン氏は其精神の發達を論じたる書に『小兒は或一定の調子の連續で物を敲くと決して倦まずに之を續ける。或者は鉛筆の端へ消し護謨をくつ付けたり離したりする動作を繰り返す毎に眼に新刺戟を働くので快感を覺えたといふことであるが、これは小兒が言語を覺える場合には殊に明に見る事が出來る。卽ち最初に新しい語を發する時には必らずうまく行かぬが段々少しづゝうまくなりかけると際限なく同じ語を繰り返すものである』と。

此反覆の衝動が遊戯を精力の竭くる迄も續けしむる生理的理由である。此同一運動を反覆するの

結果として恍惚無我の狀態又は失神的狀態の起る事は第二に注意すべき遊戯の特質である。子供が全力を擧げて躍つたり、飛んだり駈けたり又は角力つたりする時には夢中になつて猛々しい纏的な破壞的の衝動に捉はるゝものである。氷滑りをする人、自轉車乘り、浪と鬪ふ水泳者なども狂氣の如くになりて無我夢中に、力のあらん限り動作を續けるものであるが、特に舞踏者の場合にありては快き音樂の律動的調子と身體の運動の調子とを相合はするものであるから如斯き情態に最も陷り易い。卽ち反覆運動は律動(リズム)が加はれば其身心に及ぼす影響は益々烈しくなる。地方に於て盆踊りを見たるものある人は此事實をよく知つて居る。此の如き酒に醉へると等しい、言はゞ運動の酩酊的情態の生理上の原理を決定することは容易なことではない。蓋し如斯失神情態を惹起するには必らずしも激烈なる筋肉の運動を要しない。例へば一定の場所をグル〳〵廻はされるやうな受動的運動の如き場合に於ても時としては眩暈を惹起するものである。勿論能動的運動にありては恍惚我無の情態を惹起するのに、彼の前に擧げた循環的反動の法則が働くから此生理的説明の上には遙に都合がよい。舞踏の如きは實に其好適例である。

以上述べ來れる所を概括すると遊戯の生理説の基礎となる重なる原理は二つある。餘剩精力の解發と消耗精力の休息或は復活と卽ち是れである。此二原理は同時に働き得る。何となれば喪失消耗されたる力を休むる動作、換言すれば疲勞を去らしむる動作は同時に他の力を生起せしめ、且つそが要求する解發を與へ得るからである。一見餘剩精力の原理が多數の場合殊に年少者の場合に於て働くやうに思はれるが又一方から見ると全然餘剩精力とは關係なく偏に休息的なる場合もあり得る事は前に述べた如くである。次に忘れてはならぬ事は遊戯は反覆性を有し、精力の竭くる迄も之を繰り返すことである。反覆性は彼の循環的法則で説明される。卽ち刺戟に對する反應的運動は其刺戟される局所の活動を强め、更に新運動を起す所

の刺戟となる。同一運動の反覆は此理由から起る其次に來る恍惚的失神的狀態は如斯き反復活動の必然結果である。

かく見來れば吾人が前に一寸暗示した移傳的衝動を藉らずに全然生理的に遊戯の主要ある性質を説明し去り得るが如くに思はれる。實際またグロウス氏が新説を唱ふる迄は此れ以上に包括的な説明はなかつたのである。勿論以上の説明は遊戯説の上に貢獻して居るには相違ないが、既に見る如く以上の諸原理は一の系統をなすものではなく唯だ無理に繋ぎ合はしたものに過ぎぬから之を以て最上の説明とすることは物足らぬ感じがする。翻て吾人は未だ學校に出られぬ樣な小さい兒童の遊戯を見ると、此中に全問題の要點が潜んで居りはしないかと思はれる。如斯き時代の數年間の生活は全く遊戯より外に何ものもない。卽ち秩序ある教育を受くる前の兒童の全生活は飲食、睡眠の時間を除くの外は全く遊戯を以て占められてゐる。換言すれば小兒の全身心の精力は遊戯にのみ傾注されて居る。如斯を驚異すべき意義なる現象をば生理説のみで説き去る事は餘りに大膽過ぎはしないか。如斯く遊戯といふものが生命の始源と生活の現實とに密に近接して居るといふ事實を見ては從來の生理學的説明は假令遊戯説の上に少なからざる光明を與へてはゐるものゝ之を以て遊戯の本質を指摘せんとするにはあまり負擔が重過ぎる。吾人は更に老幼を問はず一切の遊戯悉くに適用せらるゝ一層普遍的な原理を覓めなければならぬ。前に擧げた第三説卽ち豫備説は之に應へんが爲に生じたものである。此説は動物の衝動又は動向に遊戯の起源を覓めんとするものであるから遊戯の生物學的研究といふべきものである。更に稿を更めて之を説明する。（未完）

カヴールの後半生

高橋誠一郎

（七）ヴィラフランカ（Villafranca）

「墳墓は發かれたり、死者は蘇れり。愛國の士は戰線に立てり、利劍を手にし桂冠を戴き、彼等の胸は唯だ伊太利の名に依りて燃えたり」。詩人は歌へり、兵士は起てり。「余は爾等が元帥なり、爾等の勇敢と節義とは前王の朝に於て、業に能く之を知れり、況んや爾等と肩を比べて、チエルナヤに戰ひし佛蘭西の大兵は今や來りて吾が軍を援けんとす、必勝を期して進め、半島の民衆は簞食壺漿して爾等を迎へ、爾等が三色の旗は忽ちにして全伊太利を風靡せん」の勅諭は雷の如くに國内に響渡れり。

墺太利の軍隊組織は憐む可く時勢に後れたり。行動は遲鈍なり、軍略は粗漏なり。加ふるに伊太利の革命軍をして鬼神の如く震駭せしめたる老將軍ラデツキーは昨年九十一の高齡を以て逝き、其後を襲ふものは凡庸無能なるギウライ（Gyulai）伯なるに於てをや。一擧にしてピスモン全土を侵略し盡す可しと誇稱したる墺軍が一敗二敗、終にマゲンタ（Magenta）の野に死傷一萬五千、捕虜五千、而して大砲四門、小銃一萬二千、函囊三萬を遺棄して去れるもの亦偶然にあらざるなり。

六月四日マゲンタの戰後更に四日を隔てゝミラン（Milan）は占領せられり。卽日佛帝は檄を飛ばして人民を鼓舞せり。「協力せよ、一致せよ、卿等は須く祖國の獨立の爲めに銃を執つてヴイクトリヤ エマヌエル王の麾下に集れ。今日に於ては唯だ宜しく兵士たれ、然らば明日は卽ち自由の一大國民たらんなり」。佛帝は得意の極、吾を忘れて大聲に呼號せり。然れども彼は間もなく自己の發したる叫聲の反響が餘りに强大なるに驚きて思はず其耳を蔽はざるを得ざりき。革命は各地に蜂起し、舊政府は破壞せられ、餘焔は延きて彼の最も氣遣へる法王領にも及ばんとす。次で來れる六月二十四日のソルフエリノー（Solferino）の戰も亦皇帝フランシス、ヨセフ（Francis Joseph）が躬自ら軍を督勵したる甲斐もなく終にキエセ河の青嵐に涙を揮つて退軍し、孤軍蕭々ミンシヨ（Mincio）河を渉り四方城（Quadrilateral）を護つて又出でず。